

## 《V 学生支援》の記述及び資料等について

### 【入学に関する支援について】

(1)入学志願者に対し、短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているかを記述して下さい。なおそれらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付して下さい。

学校案内「Light」、ホームページ、あるいは進学情報誌、WEB上での進学情報サイトを通しての広報及び、オープンキャンパスや高校訪問で受験生・保護者や高等学校教員に会う機会を得て、直接アプローチする方法とで周知している。

#### 添付資料1「Light」

(2)入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法（推薦、一般、AO入試等）をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物を参考資料としてご準備下さい。

入試ガイド、募集要項、ホームページ、あるいは進学情報誌、WEB上での進学情報サイトを通しての広報及び、受験生・保護者や高等学校教員に会う機会を得て、直接アプローチする方法とで周知している。

#### 参考資料18「募集要項」、参考資料19「Information」

(3)広報及び入試事務についての体制（組織等）の概要を記述して下さい。また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

広報については、学校案内・入試ガイド及びホームページ、あるいは進学情報誌、WEB上での進学情報サイトを通しての広報、及び、受験生・保護者や高等学校教員に会う機会を得て、直接アプローチする方法とで周知している

志願実績の多い近畿2府4県を中心に、例年、全国100ヶ所程度の進学相談会に参加し、受験生や保護者に対して直接的な広報を行っている。進学相談会には、入試センターの職員ばかりではなく、他部署の職員も入学志願者、受験生等への対応に当たっている。

なお、各高等学校あるいは業者主催の高等学校内進学説明会および模擬授業への参加。また、進学先を決定する際には学べる内容を重視する傾向にあることから、この形式の進学説明会が年々増加している。進学説明会は学年別に実施され、主に分野別の学問内容の説明を求められるケースが目立っている。平成21年度においては、183校（教員による模擬授業は56校）に参加した。

また、入試事務についての体制は、願書処理・試験実施・合否判定資料の作成・入学手続処理等の一連の業務を、入試センター職員が処理し、その後のデータ処理は、概ね電算処理業者に外部委託している。

入学試験問題は、科目ごとに編成された教員によって出題されている。入学試験問題の作成に当たっては、入試問題が高等学校の教育に与える影響を十分に考慮し、高等学校学習指導要領を踏まえる中で、科目ごとの出題者によって綿密な検討を行い出

題している。特に、英語の出題に当たっては、ネイティブスピーカーによって再三に亘るチェックを行っている。したがって、適切な問題が出題されていると考える。

入学試験実施に関しては、学長が統括し、執行部で構成された試験実施本部が設置され、入試センター長の実務指揮の下、教職員全員で実施している。なお、公募制推薦入試及び一般入試・I期の地方試験実施日には、別に地方試験連絡室を設置し、事務局長の指揮の下で本学と地方試験会場との連絡を密に取り合い、万全を期している。

入学志願者、受験生からの電話・ハガキ・FAX等の問い合わせについては、入試センターが行っている。

(4) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。入学願書等を参考資料としてご準備下さい。

入学者選抜における合否判定は、一連の入試業務の集大成であり、大学運営にも多大な影響を及ぼすことから、ミスは許されない。採点に際しては、科目ごとに複数の教員により、複数回の確認を行っている。また、入試センターにおいては、入学試験の採点データをコンピュータ処理する前に全て確認し、合否判定資料を作成している。さらに、コンピュータ処理後にも、改めて各科目の出題者によって、採点データの確認が行われている。

執行部は、この合否判定資料に基づき、合否判定の原案を検討・作成し、判定会議において、学科ごとに執行部が提示する原案を改めて検討・協議した上で合否判定を行い、最終的に教授会において審議・決定される。

また、すべての入学試験において、さまざまな選抜方法を実施する中で、明確な選抜基準によって、適切な入学者選抜を行っている。

◆願書受付から合否通知送付までの流れ<試験制度別>

試験制度名	作業の流れ
自己推薦特別入学試験 社会人特別入学試験	願書受付→整理→データ入力→コンピュータ処理 (委託業者)→受験票送付→入試実施→採点処理(委託業者)→判定会議→合否通知送付
公募制推薦入学試験 一般入学試験(I期・II期・III期)	願書受付→整理→データ入力(委託業者)→コンピュータ処理(委託業者)→受験票送付→入試実施→採点処理(委託業者)→判定会議→合否通知送付
指定校推薦入学試験 併設校推薦入学試験	願書受付→整理→データ入力→コンピュータ処理 →受験票送付→入試実施→採点処理→判定会議→合否通知送付

(5)合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述して下さい。なおそのための印刷物等があれば参考資料としてご準備下さい。

入学手続き者に対して、郵送により「学年初めに当たって」、「外国語履修選択の手引き」、「推薦図書一覧」等を送付している。

①「学年初めに当たって」

学年暦、授業科目オリエンテーション・履修登録・各資格課程オリエンテーションのスケジュール、奨学金制度等についての説明冊子。

②「外国語履修選択の手引き」

本学では、専門の英語以外にもう一言語の習得を目指させており、入学の手続き書類に外国語履修選択の手引きを同封し、入学後に履修したい言語を入学前から検討させている。

③「推薦図書一覧」

キャリア英語科より、推薦図書一覧としてプリントしたものを送付。文化、歴史、語学等に関する図書を数冊紹介し、入学までの間に読んでもらう事を薦めている。

**参考資料 5 「学年初めに当たって」、参考資料 20 「外国語履修選択の手引き」、参考資料 21 「推薦図書一覧」**

(6)入学後（入学直前を含む）、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。

1. 入学式終了後、学生生活において必要になる次の事項についてオリエンテーションを行っている。

その後に在学生（2年次生）が、「英志会(自治会)ガイド」に基づき英志会活動とクラブ活動を紹介している。

\* 「学生手帳」と「CAMPUS LIFE(学生生活の手引き)」の説明

\* 学内施設

\* 通学マナー（不法駐輪防止等）・キャンパスマナー（ゴミのポイ捨て・分別等）

\* 「通学証明書」・「在学証明書」発行手続き

2. 授業開始までに、学内で実施する教務関係の「授業科目履修オリエンテーション」と併行して、1泊2日の「新入生学外オリエンテーション」を学外施設（宇治市立アクトパル宇治）で実施している。目的は、新入生が、新入生相互、上級生の「学生アドバイザー」及び教職員との交流を図る中で、本学の教育方針を理解し、新しい環境に早く適応し、今後2年間の本学での学生生活を意義あるものとするところである。費用（本学から実施場所までの交通費ならびに宿泊費・食費）を本学が負担し、新入生全員の参加制を担保している。

実施内容は次のとおりである。

①本学出発前：学生相談室と人権教育啓発室の概要説明。薬物乱用防止ビデオの上映等。

②現地到着後：学科長、参加教員、学生アドバイザー代表の新入生へのメッセージ。各教員が各自の専門を踏まえて新入生に役立つワークショップを開催。自由参加の「学生アドバイザー相談コーナー」と「教員とのコミュニケーションタイム」。全員参加の「座談会」は、教員と学生アドバイザーがペアを組み、新入生をグループに分け、フリートーク。

この学外オリエンテーションの満足度（現地で閉会式前にアンケートを回収）は、「満足」と「まあ満足」を合わせると平成 21 年度は 93.5%（平成 20 年度は 92.7%）であった。

3. 女子学生、下宿生が多いことから、毎年所轄の右京警察署生活安全課にお願いし、学内研修会「女子学生が一人暮らしをするために」と題して併設の京都外国語大学との共催で毎年 4 月上旬に実施している。

参考資料 1 「学外オリエンテーション実施要綱」、参考資料 22 「英志会ガイド」

### 【学習支援について】

(1) 入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。

セメスター制度導入に伴い、学期毎に学年別で授業科目履修オリエンテーションを開催し、アカデミック・アドバイザーの教員と教務部の事務担当者が協働して、本学科が養成する人間像や教育課程の到達目標等を十分に理解させるとともに、履修科目の登録方法や学年別での注意事項の説明を行っている。全般的なオリエンテーションとは別に、クラス別にオリエンテーションと成績ガイダンスを実施して、1 年次生から 2 年次生まで履修過程においても単位の取得状況や学生生活の状況を見ながら細かな指導を行っている。また、個別の相談日も別途設定し、学生本人の履修計画に沿って、実現の可能性についてアドバイスをしている。また、授業開始から 1 週間は、授業科目ガイダンス週間として、選択科目の授業を前・後半 40 分の 2 回に分けて授業内容の説明をしており、学生はシラバス以外にその説明を受けてから登録できるようにしている。

(2) 学習や科目選択のための印刷物（学生便覧等を除く）があれば参考資料としてご準備下さい。

添付資料 5 「単位修得要領」、添付資料 6 「講義概要」、参考資料 4 「授業科目時間割表」

(3) 基礎学力不足の学生に対し補習授業等の取組みを行っている場合は、その概要を記述して下さい。

教育課程の中に専門リメディアル科目の科目区分を設け、主に英語と日本語の基礎的表現力を身につけさせることを目標に授業科目を配置している。現在、「Basic Grammar & Writing」「Speech Clinic」「日本語クリニック（日本語表現）」の授業科目

を開講し、入学直後の基礎学力不足の学生に対して第1 Semesterで履修できるようにしている。

(4) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制があれば記述して下さい。通信教育学科を置く場合には、添削等による指導の学習支援、教育相談の体制及び運営状況を記述して下さい。

学生の学習上の問題や悩みに対しての指導助言のための制度として、アカデミック・アドバイザー制を導入している。学年ごとに専門科目を担当する教員4人と教養を担当する教員1人の計5人で学生の指導助言にあたっている。学期の始まりには、学科長が1年次と2年次のアカデミック・アドバイザーを招集し、学生の単位修得状況、GPA評価による学生の修学状況を検証するとともに、学生の学習上の問題や悩みについての意見交換を行い、情報の共有に努めている。

(5) 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っていれば、記述して下さい。

専門基礎と専門コア科目の演習形式の授業は、入学段階から習熟度別クラスを編成しており、学期の終わりにはプレースメントテストまたはTOEICの団体受験の結果により、学期毎に学生のレベルにあった授業を実施している。また、成績評価についても、習熟度別クラスにより優秀な学生が不利にならないよう、各クラスでの評価の平均点を傾斜配点としている。

### 【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を示して下さい。

学生生活の支援は主に学生部が担当する。厚生課が奨学金等経済支援、福利厚生、通学証明書の発行を担当する。同課に管理栄養士を配置し、食堂のメニュー管理、学生の栄養指導や日々の食育を指導している。

学生課では学生証、各種証明書の発行、英志会（学生自治組織）の活動に対する指導、助言、援助を行う。学生相談室では心理相談及びよろず相談をカウンセラー9人とインターカー5人の体制で行う。開室時間は、平日21時30分、土曜17時までである。

教員組織においては、修学上の疑問や学生生活の中で生じる諸々の問題について質問や相談に応じるため、専任教員からなるアカデミック・アドバイザーを配置し、学生指導日として研究室にて対応している。なお、アカデミック・アドバイザーが研究室に在室する時間（相談日時）は、教務部が発行する「単位修得要領」や新入生オリエンテーションならびに授業科目履修オリエンテーションにおいて公表している。

医務室では校医として内科医師や心療内科医が定期的に在室している。人権教育啓発室においては、ハラスメントに関するガイドラインを設け、相談員が常駐し人権委員会との連携を図っている。

(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事（学園祭、短大祭等）の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述して下さい。

短期大学生だけで構成するクラブに、入浴した外国人観光客相手の観光案内・通訳を中心に活動する「フリーガイドクラブ」がある。このほか大学学部生が構成するクラブにも短期大学生が所属できる。

短期大学生の自治組織は、「英志会」と呼ばれ、会員相互の親睦を図る日常活動のほか、新入生歓迎球技大会、研修旅行、卒業パーティ等の行事を行う。

「六月祭」（新入生の歓迎を趣旨とする学園祭）、「体育祭」及び「外大祭」（学園祭）は、それぞれ学生による実行組織が主催する。

課外活動は、学生が自主的に運営し、活動するものであるが、本学は学生部を窓口にして、顧問・監督・師範の配置（人的支援）、部室の貸与（物的支援）、援助金の支給（経済支援）等のほか、さまざまな指導・助言・援助を行い、活性化を図っている。保護者の組織である後援会も、学生行事に対して援助金を支給する。

トレーニングルーム利用希望者に対しては、トレーニング講習を実施する。課外活動中の事故防止や健康管理のため、心電図検診を実施している。その他、緊急時における人命救助の対策として、クラブ員対象に救急法（普通救命）講習会を開催する。

(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述して下さい。なお、訪問調査の際にご案内いただきます。

1号館での授業が全授業の8割近くにのぼることから、学生は1号館近辺で休息することが多い。1号館の休息のための空間の概要は次のとおりである。

B F カフェラウンジ「コンパーニョ」

コンビニと喫茶・軽食。全商品を市価より安価で提供している。

合計146人収容可能な椅子とテーブルを配置。

お茶・ジュース類の自販機1台を配置。

3 F 39人収容可能な椅子・テーブルとソファ、パソコンコーナーを配置。

4 F 36人収容可能な椅子・テーブルとソファを配置。

5 F 42人収容可能な椅子・テーブルとソファ、パソコンコーナーを配置。

6 F 36人収容可能な椅子・テーブルとソファを配置。

7 F 42人収容可能な椅子・テーブルのほか、お茶・ジュース類自販機2台を配置。

3号館1階には医務室（保健室）がある。平日は21時20分、土曜日は20時まで開室し、有資格の看護師を配置している。また、2階には学生相談室を配し、カウンセ

ラーが相談に対応している。

2号館と4号館の空間スペースに150人収容可能なベンチ等を設置し、夜間用のスポットライトも設置し、明るい空間として学生が利用している。

12号館には20時まで営業している669人収容可能な「リブレ」の学生食堂及び9号館には19時まで営業している72人収容可能な「カフェタロー」の学生食堂を設置している。

11・12号館の空間には354人収容可能なベンチを設置している。ここには、文具・家具から電化製品まで生活用品の購買部や新刊雑誌や専門書まで販売する書籍部が19時まで営業している。

(4)短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舎の斡旋の体制、通学のための便宜(通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等)の概要を示してください。

学生寮はない。下宿紹介については次の要領で学生部が担当する。家主・不動産業者から提出されたマンション・アパート等の物件の登録票及び関係資料に基づいて紹介する。

家主・不動産業者の下宿登録は1人(社)3棟までとしている。入学試験合格発表後、下宿紹介を開始する。本学の近隣にはマンション・アパートの経営者が多く存在している。本学から西院(約1.5km)までに約10軒の不動産業者が存在している。

通学のための便宜については、11・12号館の裏に自転車約800台駐輪可能な駐輪場や11・12号館人工地盤地下には約100台駐車可能なバイクの専用駐車場を設置している。

交通機関の利便性の高い本学は、自家用車による通学は認めていない。自転車・バイクの通学は認めている。なお、本学では通学バスの運行はない。

(5)平成21年度の日本学生支援機構等の外部奨学金の取得状況を記述してください。また、短期大学独自の奨学金等があればその概要を記述してください。

平成21年度の日本学生支援機構に採用された奨学生数は、1種・2種あわせて1年次生19人、2年次生7人合計26人であった。

また、本学の後援会が行っている貸費奨学金(360,000円)では2人採用された。

本学独自の奨学金制度では、キャリア英語科長推薦で短期大学2年次生在学する学生の中から成績優秀者の給費奨学生として森田基金奨学金(150,000円)に2人が採用された。同様に総長給費奨学生(100,000円)には4人が採用された。

経済的に修学困難な学生に対して総長貸費奨学金(当該学期の授業料221,000円)制度がある。

なお、総長貸費奨学金制度は春・秋それぞれ12人の採用枠があるが、21年度実績は春学期2人の奨学生が採用された。

この総長貸費奨学金制度の中で、卒業後、5月の奨学生選考委員会において成績優秀

者に対して返還免除制度があり、平成 21 年度採用の総長貸費奨学生 7 人のうち、5 人の奨学生が 100,000 円の返還免除措置を受けた。

また、卒業年次に在籍する学生のうち、家計の困窮によって修学が困難な者に対して平成 21 年度から秋学期の授業料を免除する制度が創設され、1 人が措置を受けた。

(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示してください。

本学における学生の心身の健康保持・増進及び安全・衛生への配慮として、学生相談室と医務室を設け、心身の両面からサポートをしている。

#### 学生相談室

本学では、昭和 60 年度、他大学に先駆けて学生相談室を設置して以来、こころの健康保持・増進について、学生が有意義な学生生活を送ることができるようきめ細やかなサポートを行っている。

学生相談室は月曜日から金曜日は、9時から21時30分まで、土曜日は、9時から17時まで開室し、14人のスタッフ（カウンセラー9人、インテーカー5人）で構成している。短期大学・大学・大学院すべての学生が利用でき、相談だけでなく「こころの休息の場」としても活用してもらえよう環境を整えている。また同じ建物の1階が医務室、2階が学生相談室になっており、有効・円滑な連携が可能となっている。こころとからだの諸問題は、円環論的關係性を有しているだけに、医務室と学生相談室は緊密な有機的連携を図り、きめ細かい指導・支援に努めている。

本学の学生相談室は大きく2つの柱から成り立ち、第一の柱はこころの問題に対応していく心理相談で、精神疾患への理解を含む専門的なカウンセリングを行っている。第二の柱は法律、学業、就職、人生相談等の学生生活にかかわる諸問題・トラブルに具体的に助言し対応するよろず相談である。これら2つの柱は学生を対象とするものであるが、その性質、援助の方法は異なるものであり、それぞれの特性を生かしたものとなっている。また近年、よろず相談で訪れた学生が面接を受ける過程でこころの問題が顕在化し、心理相談に移行していくケースも増加している。

短期大学生の相談内容は、心理相談がほとんどであるが、経済的問題、学力的な問題、精神疾患を抱えての修学等他部署、外部機関との連携が重要となるケースが多い。また、保護者からの相談、教職員からの学生に関する相談も多い。

過去3年間の相談件数 (件)

年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
件数	24	13	18

#### 医務室

学生の健康管理については、学生が快適に学生生活を送るため、疾病、怪我等で大学生活に支障をきたさないようサポートすることを目的として、健康診断、応急処置



及び心身の健康に関する健康相談や指導等の業務を行っている。その他、自己の健康管理に対応するため、身長計、体重計、体内脂肪計、血圧計、視力検査器、尿検査試験紙、握力計等を備え、いつでも使用できるようになっている。

健康診断については、学校保健安全法に基づいて定期健康診断を実施している。また、留学または休学によって4月に定期健康診断を受けられない学生に対しては、帰国または復学後健康診断を実施しており、未受診のないように努めている。

その他、体育系運動部員の心電図検査及び体育授業の一環である登山前の健康相談（希望者のみ）を実施している。健康診断の結果については、平成19年度から受診者全員に配付し、必要な措置及びアドバイスをを行い、自己の健康管理を促すとともに、有所見者には個別通知を行い、今後の検査の必要性、生活指導、医療機関の紹介等含めて、個人に合わせた相談・指導を実施している。

健康相談については、学生生活において円滑に継続することをめざし、学生の健康に係る多様なニーズがあるため、気軽に相談できる窓口コミュニケーションとして身体的・精神的に配慮した相談及び情報提供・アドバイスを心がけ、学生が自らの健康に対するあり方を意思決定できるようなサポート構築を目指している。相談内容については、特に精神面の悩みに関するものが増えてきており、問題を抱える学生に対応して、早期発見・早期対処を行うため学生相談室と情報の共有を図っている。

健康指導等については、積極的な情報の提供や指導を行っているが、その内容は多様化しているため、対応できない疾病、外傷については学内・外の相談機関、医療機関との連携により医療機関を紹介している。

(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているかを記述してください。

学生個々の情報は、本学では電子媒体と紙媒体で保管している。

電子媒体については、学生情報システムを構築し学内サーバーとWEB上で事務職員が情報を共有しているが、所属、職階に応じて権限を設けるとともに、ID、パスワードによるアクセス制限を設け、情報の管理を行っている。学生情報システム以外にも、学生個人情報をふくむデータは、各部署が作成したものが多数存在しているが、全ての部署で「ドキュメント・セキュリティ」による文書のセキュリティ管理を行うとともに「Symantec AntiVirus」によるコンピュータのウィルス対策を行い、情報の不正流出、不正閲覧等に備えている。

紙媒体については、各部署においては業務終了時に保管庫を施錠する等して、慎重に管理されている。

教員が学生指導上必要とする個人情報、「個人記録」として担任に年度ごとに紙媒体で配付している。その際に該当するすべての教員には「個人記録」の適切な取り扱いに関する注意事項、情報を第三者に伝える必要があるときは必ず本人の了解を得る等の個人情報保護への注意喚起をうながす文書を配布している。

参考資料 23 「個人記録」、参考資料 24 「学生カード」

## 【進路支援について】

(1) 下の進路状況表を例に、過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の就職状況を学科等ごとに記載して下さい。また進路一覧表等の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

キャリア英語科に改称される以前の平成19年度英語科卒業生の就職率は76.3%であったが、その後、金融危機を発端とする世界的な同時不況の影響もあり、企業の採用抑制が広まった結果、平成20年度のキャリア英語科の就職率は71.4%、21年度は60.0%に留まった。

本学は夜間課程の短期大学であるが、進学希望者が全体の半数を占めており、編入学試験の結果を見てから就職希望に転じる学生も多く、就職活動に出遅れることが就職率にも影響を及ぼしていると考えられる。

過去3ヶ年の業種別では、サービス業、卸売・小売業、製造業に就職する者が多く、全体の約7割を占めている。職種別では、接客サービス、一般事務、販売等が多い。地域別では、自宅通学者が多い近畿地方が7割を占め、次いで本社所在地が集中する関東地方の約2割と続く。

平成19年度～21年度 キャリア英語科の進路状況表 (平成22年3月31日現在)

区分			平成19年度		平成20年度		平成21年度	
a	卒業者数		125人		150人		119人	
b	就職希望者数	b/a	38人	30.4%	42人	28.0%	25人	21.0%
c	うち学校で斡旋した就職者数	c/b	14人	36.8%	16人	38.1%	4人	16.0%
d	うち自己開拓分の就職者数	d/b	15人	39.5%	14人	33.3%	11人	44.0%
e	就職未定者	e/b	9人	23.7%	12人	28.6%	10人	40.0%
f	進学・留学希望者数	f/a	56人	44.8%	63人	42.0%	54人	45.4%
g	その他	g/a	31人	24.8%	45人	30.0%	40人	33.6%

(2) 学生の就職を支援する組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を記述して下さい。

学生の就職支援は、学長の諮問機関であるキャリアサポート委員会とキャリアサポートセンターが緊密な連携を図り、キャリア教育の方向性を同定するとともに学生支援における具体的な実施計画を立て、学生の特性に応じた指導・助言を行っている。正課授業であるキャリア教育の面からは、キャリアサポートセンターがコーディネートをを行い、平成19年度から1年次を対象に自らの生き方を主体的に打ち立てて、自己の個性を理解したうえで進路を選択できる能力を身につける「キャリアデザインを考える」を配置、平成20年度は自らの生き方や価値観を知ることと社会で求められる基本的な4つの力「情報収集力」、「思考力」、「コミュニケーション力」、「遂行力」を身につける「キャリア開発Ⅰ、Ⅱ」を設置、平成21年度からは2年次生を対象に就職活動の進め方や就職で必要となる力を身につける「キャリア形成Ⅰ、Ⅱ」の授業を体系

的に実施している。

また、学生が自己の能力と適性を磨き、悔いのない職業選択を支援するため、早期から自己の将来に対する明確な意識付けを目的としたキャリアガイダンスを皮切りに「自己分析」「企業研究」「ビジネスマナー」「履歴書・エントリーシートの書き方」等をテーマとした就職ガイダンスや「PLACEMENT GUIDE」「PLACEMENT DATA BOOK」等の刊行物、就職対策講座、業界説明会、学内企業セミナー、就職講演会等を幅広く実施する一方、就職に関する情報の収集や、学生の企業研究の利便に供するためのインターネットによる情報提供を積極的に行っている。

参考資料 26「スタートマニュアル」、参考資料 27「PLACEMENT GUIDE」、参考資料 28「PLACEMENT DATA BOOK」

(3) 就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報等を提供しているかを記述して下さい。

キャリアサポートセンターでは、事務室と資料室の間に相談窓口を設け、常時、進路・就職に関する相談ができるようにしている。また、模擬面接、履歴書・エントリーシートの添削、進路・就職の相談として相談室を2ヶ所設け、個別指導の環境を整備している。資料室は、月曜日から金曜日までは9時から21時まで、土曜日は19時40分まで開室している。資料室は大学と共有ではあるが、夜間の短期大学であるため昼間の大学との利用時間を有効に活用している。

学生への就職情報の提供については、求人票を受付番号順にファイルするとともに、業種別と採用窓口所在地別にもファイルをしている。さらに企業別にボックスを用意し、求人票と会社案内の情報もファイルしている。会社説明会の情報については、業種別に掲示し常時新しい情報を提供している。その他資料室にはUターン、Iターン等の就職情報誌、各種就職関係図書や雑誌、各種年鑑、就職関係ビデオ・CDを備え、閲覧と必要に応じて貸し出しも行っている。資料室にはパソコン16台を設置し、ペーパーベースの求人票をデータベース化し、説明会の日程別や業種別等での検索を可能にしておき、プリントアウトをすることもできる。また、IDとパスワードで学内のパソコンはもとより学外からのアクセスも可能である。さらに、企業説明会については、携帯電話からも検索ができる。また、本学の学生向けの求人を提供するだけでなく、本学の卒業生が活躍している企業や企業開拓で得た情報をもとに、学生の就職登録票に基づいて、希望する就職情報を提供している。

(4) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の就職状況について就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているかを記述して下さい。

過去3年の短期大学の就職率としては、平成19年度が76.3%、平成20年度は71.4%、平成21年度は60.0%となっている。平成20年度後半からの金融危機による世界同時不況の影響で、求人が激減し、就職活動が長期化しがちな短期大学生への影響が大きかったと考えられる。

就職先としては、サービス業と卸売・小売業を合わせた比率が平成 21 年度は 40.0%と、本学の就職先の特色といえる。

本短期大学の大きな特色として、夜間課程であることと、大学 3 年次編入希望が全体の約半分を占めることが挙げられる。しかし、平成 19 年度から従来の英語科からキャリア英語科に学科改変し、更に英語コミュニケーションコースと観光文化コースを設けて、早期に目標を明確にすることで進学、就職の目的を着実に達成させることを狙いとした。また、ペイドインターンシップ制度を導入したのもホテル等サービス業に就くことが多い本学学生の特色に合わせて就職支援を一層推進しようとしたもので、今後はこれらの取組の成果を検討しながら更なる改善・充実に努めたい。

なお、卒業後の就職支援として、窓口・メールでの就職相談、資料室・コンピュータの利用、在学時の ID・パスワードの継続使用による既卒者求人の検索、東京オフィスの利用等の便宜を図る。

(5) 過去 3 ヶ年(平成 19 年度～21 年度)の進学(四年制大学、専門学校等)及び海外留学の実績について、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述して下さい。

毎年学期始めの 4 月と 9 月に学生全員を対象に進路ガイダンスを実施している。ガイダンスでは、将来の進路について早期から目標を見極め、進路・就職に対する心構えや理解を深めておくことを目的としている。4 年制大学への進学については、入試センターと教務部から京都外国語大学への併設校推薦編入学試験(入学定員: 英米語学科 40 人、英米語以外の 7 学科若干名)の学内選考基準ならびに一般編入学試験の出願期間や試験科目の説明と指定校推薦編入学試験の出願期間や試験日等の説明を行っている。

専門学校については、キャリアサポートセンターの資料室に、留学については、国際交流部の留学情報室に資料を閲覧できるようにしている。

平成 19 年度～平成 21 年度進学状況 (人)

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
京都外国語大学への編入学	43	47	46
他大学への編入学(指定校含む)	12	14	7
専門学校への進学	2	7	5
留学	1	2	1

### 【多様な学生に対する支援について】

(1) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生・科目等履修生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はそれぞれのどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。なお、学生数はいずれの年度も5月1日時点とします。

入管法により、夜間のため留学生の受け入れは、ありません。

また、帰国子女入試・長期履修制度は、設けておりません。

科目等履修生のオリエンテーションを学期の初めに開催し、個別指導による学習支援を行っている。なお、実績については下表のとおりである。

多様な学生の受け入れ状況一覧（平成19年度～21年度）

種別	平成19年度	平成20年度	平成21年度	計
留学生（人）	—	—	—	—
社会人（人）	2	5	4	11
帰国子女（人）	—	—	—	—
障害者（人）	0	0	0	0
長期履修学生（人）	—	—	—	—
科目等履修生（人）	7	10	7	24

#### 社会人特別入学試験の受験資格

次の（1）から（3）のいずれかに該当する社会人（勤労者・主婦等）で、入学年の4月1日現在で23歳以上の者

- （1）高等学校（中等教育学校を含む）を卒業した者
- （2）通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- （3）学校教育法施行規則第150条第1号から第5号および第7号により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者

### 【特記事項について】

(1) この《V学生支援》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、学生の個人情報保護への取組み、成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。

学修支援の一環として、本学後援会から語学の資格検定試験受験料の一部補助を受けることができる。そして、実施する補助対象の検定試験は、団体申し込みをしており、学生の受験結果は実施機関からのデータに基づいて学生基本情報システムに蓄積し、各自の到達目標の設定や学修効果を確認できるようにしている。学生には、各セ

マスターごとのGPA評価と資格検定試験の結果を「確認シート」に記載して年度末に郵送している。

なお、個人情報保護法施行に伴い、確認シート等への記載を希望しない場合は、指定する期間内に手続きを取れば結果を反映していない。

また学生支援の一端として、平成19年度には新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援GP）に「即戦力となる人材育成のための学生支援—観光ビジネスにおける学びと実践のコラボレーション—」で、平成16年度には特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）に「入学者の質的变化に対応した学習支援—学びの環境づくり—」で申請し採択されている。

学生に対する表彰制度として、総長表彰（地域社会に貢献奉仕し、本学の名誉を高めた場合）、学長表彰（①課外活動において優秀な成績を収め、本学の名誉を高めた場合、②その他、本学発展のために貢献した場合）があり、それぞれの分野で活躍した学生を、学生部長が推薦し、学生指導委員会の審議を経て選定される。

また、平成20年6月から始めた「本の虫プロジェクト」と平成21年4月から始めた「ピカ☆イチプロジェクト」がある。「本の虫プロジェクト」は、本学が求める「人間力」を高めるために策定された「教育・学生支援プログラム」のひとつであり、年一度表彰を行っている。「ピカ☆イチプロジェクト」は、学生の自主企画活動（地域貢献・国際貢献等）を支援するものであり、採択された企画には、上限20万円の奨励金を支給している。

添付資料1「Light」P.4・5、ホームページ参照「本の虫プロジェクト」・「ピカ☆イチプロジェクト」

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点を求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし

### <添付・参考資料>

#### 1. 短期大学案内

添付資料1 「Light」

#### 2. 募集要項、入学願書等

参考資料18 「募集要項」（各種試験制度毎）

#### 3. 入学手続き者に対する入学までの情報提供のための印刷物等

参考資料5 「学年初めに当たって」

参考資料20 「外国語履修選択の手引き」

参考資料21 「推薦図書一覧」

4. 学習や科目選択のための印刷物

添付資料 5 「単位修得要領」

添付資料 6 「講義概要」

参考資料 4 「授業科目時間割表」

5. 学生支援のための学生個人情報を記録する様式

参考資料 23 「個人記録」

参考資料 24 「学生カード」

6. 進路一覧表等の実績（過去3ヶ年）についての印刷物

参考資料 25 「卒業生就職先一覧」（過去3ヶ年）

その他、指定されていない資料

参考資料 26 「スタートマニュアル」

参考資料 27 「PLACEMENT GUIDE」

参考資料 28 「PLACEMENT DATA BOOK」